
令和5年度予算編成について

昨日、「令和5年度予算編成方針」を各部局長に通知し、新年度当初予算編成作業を本格的に開始した。

1 予算編成の基本的な考え方

- ・今年度、「ひと」をまちづくりの主役に位置付け、「ひとの力」をテーマとする総合計画第4次基本計画をスタートさせた。常に進化し続けるまち「持続可能な未来都市 高岡」の実現を目指し、時代に応じた「変革」に取り組みながら、全ての市民が何事にも「挑戦」できる環境を整え、次の世代から共感を得られるまちづくりを進めている。令和5年度においては、これまで市民により生まれた「挑戦」を引き続き全力で応援することで、新たな「挑戦の種」を育む好循環を創るとともに、「挑戦」の連鎖による化学反応やイノベーションを起こし、高岡を前へ進めるエネルギーを生み出していく。
- ・そのためには、コロナ禍に加え、国際情勢の変動等が市民生活や経済活動に大きな影響を及ぼすなど、社会を取り巻く環境が不確実性を増している状況にあっても、市民による「挑戦」が常に生まれ続けるよう、全ての市民が安全で安心な生活を送ることができる環境を堅実に整えていかなければならない。
- ・また、持続可能な経済社会を築くため、かつ、豊かな自然環境をしっかりと次世代へ引き継いでいくためにも「脱炭素社会」への「転換」を推進していくことが求められている。令和5年度は、高岡市カーボンニュートラル推進ロードマップにも掲げた将来像「カーボンニュートラルによる地域も暮らしも豊かになる社会」の構築に向けた、足場を確実に固め、取組みのスタートを切るとともに、市民一人ひとりの「脱炭素」に対する意識を醸成し、多様なステークホルダーによる「転換」への動きをしっかりと支えていく。
- ・更には、持続可能な都市として将来にわたって健全な財政運営を持続していくため、現在進めている事業の意義や目的、その達成度をしっかりと見極めた上で、20年、30年後を見据えた斬新な発想による施策の展開や新たな手法による事務事業の刷新、「民間活力導入」の可能性を積極的に検討するなど、取り組むべき事業の重点化を進めながら、地域課題の解決に向けて積極的に施策を展開していく。

2 令和5年度予算編成のポイント

今後、行政課題の多様化や各事業に係るコストの増嵩が見込まれる一方で、一般財源は現在の水準を超えないことから、引き続き、行財政改革に取り組みながら、未来を見据えた予算を編成する。

具体的には、持続可能な行政サービスの提供に向け、選択と集中の徹底、市債発行の適正化を図ることで財政均衡を保ちながら、新たな財源の確保や官民連携の推進により、社会情勢の変化に伴う行政需要にも柔軟に対応できる財政構造を確立する。

あわせて、地方財政を取り巻く環境が不透明な中、市民サービスの維持・向上を図るためには、事業の費用対効果を高めることが重要であり、既存事業の再構築や時代に合った施策の展開などスクラップアンドビルドを前提とし、積極的な取り組みを推進する。

(1) 徹底した事業の再点検に基づく予算編成の実施

各部局において現在実施している全事業の意義や目的、効果を見直した上で事業を積み上げ、選択と集中を推し進める。(各部局における見直しの基準としては一般行政経費の5%相当とし、各部局の要求額の上限を設定する)

(2) 予算要求特別枠の設定

① 「高岡を前へ進める事業」枠の設定

「持続可能な未来都市 高岡」の実現に向け、スクラップアンドビルド及び事業の目標や終期の明確化を前提とし、次の視点や手法による重点的な検討を求めたうえで、(a)～(d)の事業について上記(1)の上限額の枠外での提案を募る。

- (a) 市民の「新たな挑戦」への支援
- (b) カーボンニュートラルの実現に向けた事業
- (c) DX等を活用した事業の構築や事業手法の転換
- (d) 民間活力を活用した事業

<重点的な検討を求める視点及び手法>

- 視点
 - ・ パートナシップ連携（官民連携・地域共創等）による課題解決
 - ・ カーボンニュートラルに資する事業
 - ・ DXへの取り組みによる市民サービスの向上 など
- 手法
 - ・ 費用対効果の高い事業への選択と集中
 - ・ 業務の標準化や省力化 など

② インセンティブ制度(予算要求枠の拡大)の設定 (新たな歳入の確保、稼ぐ力の充実)

新たな歳入を確保するなど、一般財源の確保に資する提案内容に応じて予算要求枠を拡大する。

〔参考：予算編成日程〕

11月上旬	予算要求書の提出
1月中旬～1月下旬	市長査定
2月中旬	予算（案）の発表